

小学校における福祉教育のあり方をさぐる

I 研究の内容

1 研究の方法と内容

- (1) 各校の福祉教育の実践報告を行い，学び合う。
- (2) 研究授業を行い，福祉教育のあり方について研究を深める。
- (3) 理論研究，学習会をし，福祉について理解を深める。

II 実践・研究授業

1 各校の実践

(1) 菱山小学校の実践

- ・昨年度の研究授業「耳の不自由な人の生活について考えよう～共に生きるために自分ができること～」の報告

(2) 牧丘第一小学校の実践

- ・昨年度の研究授業「笛吹荘のお年寄りと交流しよう」報告

(3) 玉宮小学校の実践

- ・視覚障害者を招いての福祉集会 5，6年道徳授業「白いつえのおねえさん」

(4) 松里小学校の実践

- ・松小縁日，地域のお年寄りや施設訪問を通しての交流

(5) 奥野田小学校の実践

- ・総合的な学習の時間「お年よりの生活を体験してみよう」

(6) 加納岩小学校の実践

- ・加納岩小の福祉教育のカリキュラム 2年「命の学習」の実践

2 講師による学習会（講師 深澤秀興指導主事）

- ・「学校教育の中で福祉教育をどうとらえ，子どもに福祉という学力をどのようにつけていくか」学習会と理論研究

3 研究授業

(1) 総合的な学習の時間「つくろう！ハッピーライフ～福祉ってなんだろう？」

塩山北小 雨宮 正教諭

ア. ねらい

- 「幸せな社会」をつくるために自分たちにできることを考える活動を通して，助け合って生活しようとする態度と実践的な福祉の心を育む。

イ. 本時の学習「北小5年の考える『ハッピーライフ計画』を考えよう！」

- ①みんながハッピーライフにしていくため，自分たちにできることは何か考える。
- ②班での話し合いで出た意見を，学級全体で交流し合う。

◇児童にとって幸せな世の中とはどのようなことか，広く子どもたちからの考えを出し合い，「みんなが幸せになる」という福祉の定義にふれ，自分にどのようなことができるか考え，話し合う学習が行われた。子どもたちからは，ボラ

ンティアに関わることや社会のこと、家族のこと、学級でのことなど様々な角度から意見が発表され、次時につながるものとなった。

(2) 道徳「あなたのためになったことがうれしい」(資料名 『うれしい朝』)

塩山南小 保坂洋仁教諭

ア. ねらい

○2人の間に飛びかった「ありがとう」の言葉に込められた意味を話し合うことを通して、相手を思いやるよさを改めて感じ取り、進んで人に親切にしようとする心情を養う。

イ. 本時の学習

①資料「うれしい朝」を読み、助けてもらった人の気持ちについて考える。

②助けてあげた人の気持ちについて考える。

③二つの「ありがとう」について、考えまとめる。

◇「ありがとう」は、自分が相手から何かしてもらったときにいう言葉であることは子どもたちも思いつく。しかし、もう一つの自分が相手の役に立てたことや親切にできたことに対して出る「ありがとう」について、資料をもとに考えていった。相手の役に立てること、親切にできる喜びを子ども達も理解でき、実践していこうとする意欲に結びつくものとなった。

III 成果と課題

1 成果

- ・福祉教育の目標「ともに生きる」ということを確認し、共通理解を持って授業案の検討や各自の実践授業ができてよかった。「してあげる」ではなく、お互いに関わり合い、支え合って生きていくことを学ばせていく、という基本が確認できた。
- ・講師の先生をお招きして理論研究でき、授業実践へとつなげることができた。福祉教育の活動のなかで、我々教師は子どもにどのような学力を育てていくのか、課題意識が明確になった。
- ・二つの授業研究は、それぞれにおいて今後の福祉教育のあり方を模索していく上でとても参考になるものであった。障害者、高齢者理解も子どもたちにとってはとても意義のある学習であるが、大きなプロジェクトを組む授業でなく、日常の中で子どもたちに福祉の心を育てる手だてを今後も探っていきたい。
- ・「福祉」ということを模索しながら、総合と道徳という異なったアプローチで迫り、地に足のついたしっかりとした実践ができた。

2 課題

- ・「ともに生きる」ために子供たちに学ばせたいことは、幅が広く、奥が深い。また、福祉の心を子供たちに身につけさせるためには、授業はきっかけでしかなく、息の長い継続的な取り組みが必要である。
- ・授業を通して、考え学んだことを、どう日常生活の中につなげていくのか、子どもたちの「生き方」に反映させていくのか、実践や授業の〈その後〉が大切である。
- ・小学校から中学校に、さらにはその後どのように福祉教育がつながっていくのか。現在、部会員が小学校教員のため、今後は中学校の先生方にも加わって研究を進めていくことが望まれる。その意味でテーマ等の見直しも必要である。

(部長 新藤 徹)